



首都ルサカ周辺の未計画居住区で、ヘルスセンター職員や現地のボランティアと一緒に5歳未満児の体重を測定する金谷林専門家。栄養指導や予防接種を行い、子どもたちの健康改善に取り組んでいる

実践! ★★★★★ 人間の安全保障

成長の果実を、すべての人々へ届けるために

順調な経済成長の一方、富の公平な分配が課題となっているザンビア。真に援助を必要とする、末端の人々にまで届く支援を目指すJICAは、人づくりと制度づくりの双方の支援に取り組んでいる。

ア

フリカ南部のザンビアでは、ここ数年、最大収入源である銅の価格が高騰したり、主食のメイズを中心とした農作物の生産量が増え、経済成長率も5%台を記録するなど、着実な成長を遂げています。しかし、国全体としては順調に見えても、実は全人口の7割が貧困層で、そのうちの8割は農村部に暮らし、富が公平に分配されていません。また、地方や都市の未計画居住区ではHIV/エイズなどの感染症がまん延し、私たちの周囲でもよく知人が亡くなるなど、死はあまりにも身近な存在です。そうした末端の人々にも、成長の果実を着実に届けることが、人間の安全保障を実践する上での大きな課題です。

JICAザンビア事務所では、経済成長を通じた貧困削減を確実に達成できるよう、特に教育、保健、農業といった社会開発分野と、経済インフラや投資促進など経済開発分野の支援をバランスよく実施し、人づくりと制度づくりの双方の支援を行っています。

例えば、2002年から実施している「孤立地域参加型村落開発プロジェクト」では、道路状況などが悪く孤立しがちな地方農村で、村の自立発展を支援しています。プロジェクト対象の村では、村人全員が自立した村づくりをするためのアイデアを出し合い、現金収入源となる農作物の生産、生活雑貨や野菜を扱う売店を始めるなど、活動の幅を広げています。その中で、話し合いを取りまとめるリーダー的な人材も育っています。村人の自主性を尊重するこうした取り組みは、人々の意欲も引き出し、村づくりの基礎になっているので、ほかの地域でも同様の取り組みが行えるよう支援を継続していく予定です。

また、首都ルサカ周辺では、地方から流入した

70万人以上の貧困世帯が未計画居住区に住んでいます。急激な人口増加に対し、給水や上下水道などの公共サービスが追いついていないほか、放置されたごみや汚水などによって衛生環境が悪化しています。HIV/エイズやコレラなどの感染症も広がっています。そこでJICAは、日本の無償資金協力で建設された給水施設がある地区で、住民の中から環境衛生活動を行う普及員を育成したり、子どもの健康をきちんと管理するための活動を支援しました。その結果、コレラの死亡者数が激減したのです。この成果をもとに、現在、6地区で5歳未満児を対象にした体重測定や栄養指導、予防接種を行う場を設けるなど、同地域の子どもたちの健康改善に努めています。

こうした事業の特徴は、日本人専門家が地域に入り込んで人々と共に考え、問題解決のためのアイデアを探る点にあります。アフリカの多くの地域では家々が点在し、コミュニティーの意識が薄いいため、まずは人々が集まる場を提供することが、末端まで支援を届ける近道なのです。そしてもう一つ、地域の人々の声を政府の制度づくりに反映させることにも努めています。人づくりと制度づくりの支援を同時に行い、ザンビアが独自の開発の道を見つけ、持続的に成長していけるよう、支えていきたいと思えます。

また、ザンビアでは援助協力が活発で、国際機関や各国ドナー、NGOなどが効率よく支援できるよう、ザンビアの国家開発戦略をもとに互いの活動内容を共有・調整しています。そうした援助コミュニティーの中で、人間の安全保障の視点を重視するJICAの姿勢を理解してもらっており、末端の人々にまで支援を届ける一助になると考えています。